

電線新聞

グループ業績の32%を占める

古河電工産業電線 平塚工場

新製品の燃線工程で

生産性を30%向上



江川清昭 工場長

古河電工産業電線・平塚工場(神奈川県平塚市)では、繁忙状態が続

古河電工産業電線・平塚工場(神奈川県平塚市)では、繁忙状態が続く。工場内でひとときわくわくとしたのが、低圧分岐付ケーブル「超軽量ハイブリッド」の生産現場だ。幹線ケーブルの導体にアルミを採用し、分岐線には銅導体を採用。質

同社は国内に生産拠点を4工場構え、機能線に特化した九州工場(福岡県北九州市)と汎用線を担当する北陸工場(石川県羽咋郡)や栃木工場(栃木県矢板市)がある。平塚工場は古河電工

12ポイント増加した。66年の操業開始以来、約50年が経ち生産品目は多岐にわたる。具体的な生産品目は、汎用線が建設工事に用いられる機能線が電力配電線、鉄道用電線、液化天然ガスボンベ向け低温電線、太陽光発電用ケーブル、放送局

を基材とする直径0.83mmのNb3Sn超電導素線で、この素線576本と寸法の銅線288本をより合わせて、約34mmの外径に仕上げる。このケーブルの燃り合わせは非常に技術要求が高く、5段階に分けて行う。平塚工場は4次燃りまで担当し、最終燃りは本体内である古河電工の千葉事業所で行った。

同工場では生産性の改善にも取り組む。生産性は15年度対比で17年度上

上高の32.1%、年間出荷銅量の26%を占める。平塚工場の特長は汎用線と機能線を生産する点にある。

古河電工産業電線・平塚工場(神奈川県平塚市)の特長は汎用線と機能線を生産する点にある。同工場の売上高は、16年度93億円(前年度比3.1%減)で、同社全体の売上高の32.1%を占める。製品別の17年度上期売上高比率は、汎用線35%、機能線が65%。同工場では機能線への生産シフトが進んでおり、15年度対比で機能線の割合が12ポイント増加した。生産性の改善にも取り組み、生産性は15年度対比で17年度上期

を基材とする直径0.83mmのNb3Sn超電導素線で、この素線576本と寸法の銅線288本をより合わせて、約34mmの外径に仕上げる。このケーブルの燃り合わせは非常に技術要求が高く、5段階に分けて行う。平塚工場は4次燃りまで担当し、最終燃りは本体内である古河電工の千葉事業所で行った。

同工場では生産性の改善にも取り組む。生産性は15年度対比で17年度上

期7ポイント増で着実に実績を上げる。正に審査される。同社はこれをカイゼンの頭文字をとって「K-1グランプリ」と名付けている。16年度の「K-1グランプリ」で平塚工場は、1位の北陸工場に次ぐ2位の北陸工場に入った。平塚工場は、新製品の燃線・テーパー工程で、線速の向上、準備(段替え)時間短縮、効率的な人員配置などの改善を行い、作業

各工場から選抜された6チーム(平塚工場2チーム、九州工場2チーム、栃木工場1チーム、北陸工場1チーム)が敵



工場訪問レビュー

電線メーカー

く。工場内でひとときわくわくとしたのが、低圧分岐付ケーブル「超軽量ハイブリッド」の生産現場だ。幹線ケーブルの導体にアルミを採用し、分岐線には銅導体を採用。質

同社は国内に生産拠点を4工場構え、機能線に特化した九州工場(福岡県北九州市)と汎用線を担当する北陸工場(石川県羽咋郡)や栃木工場(栃木県矢板市)がある。平塚工場は古河電工

12ポイント増加した。66年の操業開始以来、約50年が経ち生産品目は多岐にわたる。具体的な生産品目は、汎用線が建設工事に用いられる機能線が電力配電線、鉄道用電線、液化天然ガスボンベ向け低温電線、太陽光発電用ケーブル、放送局

を基材とする直径0.83mmのNb3Sn超電導素線で、この素線576本と寸法の銅線288本をより合わせて、約34mmの外径に仕上げる。このケーブルの燃り合わせは非常に技術要求が高く、5段階に分けて行う。平塚工場は4次燃りまで担当し、最終燃りは本体内である古河電工の千葉事業所で行った。

同工場では生産性の改善にも取り組む。生産性は15年度対比で17年度上



平塚工場

線国時評

岸本 庄八郎



半導体需要の好況が続く (電線業界にとっても好影響)